

## NAFTA再交渉の行方

米国とメキシコがNAFTA再交渉を巡り合意できたとの報道を受けた市場の動きを見ると、メキシコ・ペソや上昇が続いていたメキシコ株式市場は小幅ながら下落(ペソ安)しました(図表2参照)。合意の可能性は以前から報道されていたことや、合意内容が想定範囲内であったことが背景と思われる。

### 米メキシコ協定:米国とメキシコ、二国間で協定に合意

トランプ米大統領は2018年8月27日、北米自由貿易協定(NAFTA)再交渉を巡り、メキシコと2国間で大筋合意に達したと発表しました(図表1参照)。焦点の一つである自動車貿易の関税をゼロにする条件に関し、域内での部材調達比率の引き上げなどで合意しました。今後はカナダが合流して3カ国で最終決着できるかに注目が集まっています。

### どこに注目すべきか: NAFTA、米メキシコ協定、乳製品、19条

米国とメキシコがNAFTA再交渉を巡り合意できたとの報道を受けた市場の動きを見ると、メキシコ・ペソや上昇が続いていたメキシコ株式市場は小幅ながら下落(ペソ安)しました(図表2参照)。合意の可能性は以前から報道されていたことや、合意内容が想定範囲内であったことが背景と思われる。このため、NAFTA再交渉の今後の注目点は、カナダを含めた合意が実現するかにシフトしています。

今回の合意は、「米メキシコ協定」と呼ばれているように、カナダは交渉に参加していませんでした。しかし、カナダのフリーランド外相は28日、メキシコ側の進展を受け、NAFTA再交渉協議に復帰しました。米国側は3カ国による合意期限を今月31日としており、時間が限られている点は気がかりです。

カナダが交渉で重視している主な項目は2点です。

1点目はカナダによる乳製品の供給管理制度(米国農家の乳製品輸出を妨げているルールの変更)です。

2点目は違法な補助金やダンピング(不当廉売)を審査し、拘束力のある判断を示す2国間パネルの設置を規定しているNAFTA第19条の廃止です。米国は紛争解決メカニズムを規定する19条の廃止を求める一方、カナダは廃止に反対しているからです。

その他にも知的財産保護の分野でもカナダの主張と米国には食い違いが見られます。いずれにせよ、19年に選挙を控えるカナダのトルドー首相も安易な妥協姿勢は見せられないという難しい面はあると思われます。

それでも、報道でカナダ側に乳製品の件で譲歩の兆しと伝えられるなど合意に向けた動きも見られます。

もう一度、メキシコと米国の合意内容を振り返ると(図表1参照)、米国の譲歩も見受けられます。例えば、サンセット条項はメキシコからも、カナダからも反対の強かった条項です。

部材調達比率も75%に引き上げられていますが、当初、米国が同比率85%を求めていたことを思えば、米国の譲歩が感じられます。交渉で圧力をかけ続けるのがトランプ大統領のいつもの手段ですが、最後は譲歩するところトランプ流の手口(今回はかなりドタバタ)のように見受けられます。

最後に、カナダドルの動きを見ると、6月にトルドー首相の発言を巡り、トランプ大統領との関係が悪化したため、カナダドルは下落しましたが、足元は当時の水準に戻っています。懸念はつきませんが、市場はカナダのNAFTA回帰の可能性を織り込んでいると見ています。

図表1:米国とメキシコの主な合意内容

項目	内容
部材調達比率	域内での自動車の無関税輸出の条件である部材調達比率を現行の62.5%から75%に引き上げ
賃金条項	自動車の製造工程の40~45%を時給16ドル以上の地域で行うこと
サンセット条項	参加国が協定更新で合意しない限り5年後に自動失効するという米国が求めたサンセット条項を緩和し、協定を6年後に見直す
知的財産保護	バイオ医薬品のデータ保護期間は10年間
農産物関税	農産物貿易の免税措置は継続

出所:米通商代表部(USTR)、各種報道を参考にピクテ投信投資顧問作成

図表2:メキシコペソと加ドルの対ドルレートの推移

日次、期間:2017年8月28日~2018年8月28日



※出所:ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成